

ウェブを使った活動

鹿児島県立国分高等学校

本校ではコロナウィルス影響下に、Web会議システムを活用した事業を推進している。

1. 宮崎グローバルサイエンス研修

8月20日に、Zoomを活用し、宮崎大学の3名の先生方に「気候変動に適応した植物をデザインするために～形質・ゲノム・環境情報から成長予測への挑戦～」というタイトルで講義をしていただいた。

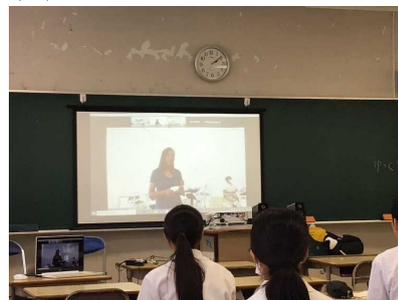
(1) 13:30 - 14:30 生徒によるプレゼンテーション・質疑応答、指導・助言

最初の30分は本校の紹介を、参加者18名が協力して英語で行った。発表後は、3名の先生方から英語での発表方法の指導や本校に関する質問等を英語でしていただいた。その後、6人が課題研究の発表をフリップを使い英語で行った。発表後に先生方からいくつかの研究に対して質問やアドバイスがあった。Zoomでの発表、質疑応答であったため、お互い少し声が聞きづらいところもあったが、実際の対面での指導と同じような感覚で、行うことができた。



(2) 14:40 - 15:40 講義（明石20分・メロディ20分・田中20分）

明石先生からは研究の全体概要説明、メロディ先生からはフィリピンの紹介と、フィリピンにおける地球環境変動に起因する農業上の問題と、品種改良（育種）の必要性について【英語】、田中先生からは、JSTCRESTプロジェクトの内容を中心に植物の3D計測技術や予測モデルの構築などを紹介、気候変動に頑健な植物の育種についての講義があった。Zoomでの講義であったが、ときに宮崎大学の先生方から本校生に問いを投げかける等、Webでも飽きさせない工夫があった。



2. SSH生徒研究発表会

3年理数科生物班が出水市に発生したリュウキュウアブラゼミの研究発表を行った。1次審査はビデオでの審査で、見事2次審査に残ることができた。2次審査では、Zoomでの質疑応答が20分間あった。5名の先生が、別々の場所から、本校生に対して質問を行った。生物実験室で、大型ディスプレイを活用して質疑応答に臨んだが、Zoomでの質疑応答の練習を十分に行っていたため、特に問題なく答えることができた。



3. マリンチャレンジプログラム

マリンチャレンジプログラムは日本財団「海と日本のプロジェクト」の一環であり、水環境に関わる研究をサポートするプロジェクトである。3年生理数科情報班は、ハザードマップを周知させるための研究・アプリの開発を行ってきた。上記プロジェクトの1次審査を通過し、九州地区チームとして採択された。4回に渡るWherebを使ったWeb面談を行った。九州大会はZoomによるオンラインで開催された。持ち時間は7分間ありスライドを使って発表した。アプリの実演部分はあらかじめ動画を撮って対応した。その後の質疑応答まで、通常の大会と変わらず行うことができた。

